

# そのドア、 自動で開きますか？

～マジョリティの立場から人権を考える～

私は、当たり前に開く自動ドア。

でも、誰かには開かないかもしれない。

時には、その逆もあるかもしれない。

キーワードは

「マジョリティ」と「マイノリティ」。

誰にでも、その両面があることを知ると  
みんなが生きやすい社会を考える

ヒントが生まれる。



そのドア、  
自動で開きますか？

～マジョリティの立場から人権を考える～

お問合せ

東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課  
〒163-8001 東京都新宿区西新宿2-8-1  
TEL :03-5320-6864

令和3年度制作

企画： 東京都教育委員会

制作：株式会社CNインターボイス



人権学習教材ビデオ  
活用の手引き



差別してはいけないことはわかっているし、自分は特に差別をしているとも思っていない。

だから、差別や人権問題について学ぶということが自分とどう関係があるのかが正直よくわからない。

そういう人は結構多いのではないでしょうか。

差別されている側の人たちについて知ることはものすごく大切です。ただ、それだけでは、社会は変わらない。

最初の一歩は、まず自分のマジョリティ性に気付くこと。

人は誰しも「マジョリティ」と「マイノリティ」の両面があります。

ここでは、社会的にチカラを持つ、優位な立場に立つ側を「マジョリティ」、その反対側を「マイノリティ」と呼びます。

それは、例えば「性別」「国籍」「障害の有無」の違いであったりしますし、状況などによって変化もします（また、将来変化するかもしれません）。

このビデオでは、こうした人間の持つ「マジョリティ」性にスポットライトを当てながら、ちょっと視点を変えた形で差別の問題と向き合います。

自らのマジョリティ性に気付くことで、いかに自分にはたくさんの自動ドアが次々に開いてきたのかが自覚できるし、差別の問題は構造的な仕組みに由来していることが少しずつ見えてくるでしょう。

マジョリティが自分の持つチカラ（「特権」）を意識し、そのチカラを使ってマイノリティとともに不公正を正すことができると、世の中は、誰もが生きやすい社会に近づきはじめます。

誰もが生きやすい社会を考えることはあなた自身が生きやすい社会を実現することにもつながるのです。

## ビデオの構成

このDVDは全編を通して視聴するほか、チャプターごとに視聴できます。メニュー画面から選択してください。

オープニング	<b>Chapter1 VTR</b> 東京において、解決しなければならない人権問題が数多くあります。マジョリティ側にある特権を理解することで、偏見・差別について考えます。	4分46秒
	<b>Chapter2 スタジオトーク</b>	3分23秒
人権課題1 ハンセン病患者・回復者と その家族の人権	<b>Chapter3 VTR</b> 小学生のときにハンセン病と診断されハンセン病療養所に隔離された経験のある石山春平さん。現在は自らの体験を語り伝える活動をしています。	4分59秒
	<b>Chapter4 スタジオトーク</b>	2分00秒
人権課題2 同和問題 (部落差別)	<b>Chapter5 VTR</b> 被差部落出身の両親のもとに育ち、身近に差別の問題を感じてきたという上川多実さん。同和問題(部落差別)を知ってもらいたいと情報発信しています。	5分31秒
	<b>Chapter6 スタジオトーク</b>	2分55秒
人権課題3 アイヌの人々の 人権	<b>Chapter7 VTR</b> 北海道平取町・二風谷出身、アイヌにルーツがある関根摩耶さん。YouTubeでアイヌの言葉や文化について発信しています。	6分04秒
	<b>Chapter8 スタジオトーク</b>	3分38秒
エンディング	<b>Chapter9 VTR</b> マイノリティの味方（アライ）の存在が増えることによって、誰もが生きやすい社会になる可能性があることを視聴者へのメッセージとして伝えています。	4分07秒
	<b>Chapter10 スタジオトーク</b>	2分50秒

## このビデオについて

このビデオは「人権」を自分事として考えることを目的とし、人権学習をはじめ、放課後子供教室スタッフのための研修、家庭教育、ボランティア活動など幅広い場面で活用できるよう構成されています。

冒頭VTRではビデオの基本的な観点として、上智大学の出口真紀子教授による「マジョリティの特権」の考え方を紹介します。また、取材VTRでは人権課題として「ハンセン病患者・回復者とその家族」「同和問題（部落差別）」「アイヌの人々」を取り上げています。



**出口真紀子さん**

上智大学外国語学部英語学科教授

ニューヨーク州のセント・ローレンス大学心理学部などで教鞭をとり、2012年から現大学。  
専門は文化心理学。文化変容のプロセスやマジョリティ・マイノリティの差別の心理について研究。

出口教授は人生の前半を、米国で駐在員の子供として過ごしました。その頃は「アメリカ社会ではマイノリティであるアジア人」「男性社会でマイノリティである女性」という自己認識を持っていたそうです。ところが後に現地の大学で教鞭をとるようになると、貧困などの理由から高等教育と縁遠い家庭で育った学生などと出逢います。その出逢いなどをきっかけに、教育の機会に恵まれていた自分の中のマジョリティ性にも気付いたそうです。こうしたご自身の体験をもとに研究を進められ、現在大学では「差別の心理学」「立場の心理学：マジョリティの特権を考える」などの科目を担当しています。

## スタジオについて

スタジオでは出演者がVTRを見ながら「マジョリティ、マイノリティとは?」「偏見や差別のない、誰もが生きやすい社会とは」などについてトークを展開します。

これはそれぞれの学習の現場等で子供たち・受講者などの視聴者が「自分事」として人権について考えるためのヒント（サンプル）として機能することを目指しています。

## スタジオ出演



**熊谷晋一郎さん**

東京大学先端科学技術研究センター准教授

生後間もなく、高熱が原因で脳性麻痺となり手足が不自由になる。大学卒業後、小児科医として10年間病院に勤務。現在は当事者研究分野の研究室で、発達障害研究など、障害のある人がより生きやすい環境づくりに学術的な側面から取り組んでいる。



**井上咲楽さん**

タレント

テレビのバラエティ番組などで活躍。学生時代から時事問題に关心をもち、新聞スクラップなどを通じて自らの見識を広めており、ワイドショーなどのコメンテーターとしても活躍している。

## アクティビティ「紙ボール投げ」

出典 : Nathan W. Pyle (Nov. 22, 2014) This Teacher Taught His Class A Powerful Lesson About Privilege. Buzzfeed.com  
<https://www.buzzfeed.com/nathanwpytle/this-teacher-taught-his-class-a-powerful-lesson-about-privil>



マジョリティの特権は自分ではなかなか気付けない。

そこで特権を体験するアクティビティが「紙ボール投げ」です。

最初にファシリテーターがアクティビティのルール（動機付け：架空の国では投げた紙ボールがゴミ箱に入れば社会階層が上がる／例「お金持になれる」など）を読み上げ、一人一枚ずつ紙を配り、名前または本人とわかる記号を書いてもらい、ボール状に丸めて一斉に投げてもらいます。ゴミ箱に入れた人の名前を読み上げ、手をあげてもらいます。大抵、前列に近いほど入る人数が多くなります。それぞれ違う列の人々に、投げたときどのような想いだったかを聞いて全体で共有します。

前の方に座っている人々は「入るだろと思った」とか「入らないと恥ずかしい」などと口にしますが、後ろに行くほど「入る自信がなかった」「入らないと思ったが一応投げた」、一番後ろの方だと「どうせ入らないと思った」「諦めて投げもしなかった」といった発言があります。

こうした声が共有されることで、参加者はそれぞれの立場からの想いを知ること

そのドア、自動で開きますか？

とができます。また、後ろの席の人は明らかに不公平だと感じますが、「これは不公平です！」という声は一番前の席の人からは聞こえません。



このアクティビティを社会の縮図と捉えると、前の方の席はマジョリティ性の多い特権を有した人で占められ、後ろに行くほどマイノリティ性の多い人たちが占めている。それぞれの人の「投げる」行為は「努力」を示しており、一番前の人も努力をしていないわけではないが、後ろの席の人に比べて少ない努力で目標達成できることが理解できます。

一番前に座っている人々は自分の特権には気付きません。見えているのは自分とゴミ箱の間の距離だけ。最後にファシリテーターは「あなたたちは様々な特権を有する立場にいることに気付きましょう。そして教育という名の特権を活かし、自分より後ろの席にいる人の支援にあたりましょう」と締めくくります。

最後に、投げた紙ボールはみんなで拾いましょう。

【出口真紀子：マジョリティの特権を可視化する～差別を自分ごととしてとらえるために～】  
より（一部改訂）

### 自動で開くドアとは？

マジョリティの持つ特権を意識するキーワードに「自動で開くドア」があります（このビデオのタイトルもそうです）。

ドアが勝手に開いてくれると、いつの間にかそこにドアが存在すること自体を忘れ、意識しなくなります。自分にとってそれが当たり前になれば、自分が前に進めるのと同じように誰もができるはずだと思いがちです。でも実際は、マジョリティであることで、自動的にドアは開くのです。だからこそ、自動ドアがどこでどう開くのかに自覚的になることが大切です。例えば、車椅子ユーザーの方が選べる移動手段は限られていますが、障害のない人にとっては当たり前のように選べる移動手段の選択肢（歩行、自転車、バス、タクシー、電車…）こそが、自動ドアがたくさん開いているということなのです。

これは「自分には自動で開くドア」は「誰かには自動では開かないドア」かもしれない、という形で自らの特権への気付きを促します。

# 「ハンセン病患者・回復者とその家族の人権」

## ハンセン病とは

ハンセン病は、らい菌により末梢神経や皮膚が侵される感染症ですが、感染力は非常に弱く、現在の衛生環境では感染することはほとんどありません。仮に感染したとしても、投薬と外来治療だけで確実に治癒します。しかしあつては不治の病や遺伝病、業病（前世の悪業の報いによって、かかるとされた治りにくい病気、という迷信）などと恐れられ、患者のみならず家族も偏見と差別にさらされました。



らい菌 提供/国立感染症研究所



病棟への入院 提供/国立ハンセン病資料館

日本では昭和6(1931)年の「癩(らい)予防法」制定以降、日本中のすべてのハンセン病患者の強制隔離が進められました。そのことが「ハンセン病は恐ろしい病気だ」という誤解を生み人々の偏見と差別をより大きくしたのです。

ハンセン病と診断された人は、全国13か所の国立ハンセン病療養所などに収容されました。患者本人やその家族は厳しい偏見と差別にさらされたため、多くの人は病気が治った後も療養所に留まざるを得ませんでした。



多磨全生園・旧山吹舎 男子独身軽症者寮

ハンセン病の患者を隔離するとして「らい予防法」は平成8(1996)年になってようやく廃止されましたが、今も回復者の多くは故郷の地を踏むことなく、療養所での暮らしを続けています。

石山春平さんは、ハンセン病回復者として全国の小学校や中学校等で自らの体験について語り伝え活動を行っています。



**石山春平さん**  
ハンセン病 回復者

僕が病気がわかったのは昭和22(1947)年、小学校6年生の時。いきなり先生から「石山君はもう学校今日は帰りなさい」と言われて、なんともないから立ち上がって「この通り僕は元気だ病気じゃない」と言ったの。

そしたら先生が「君は人に言えない病気だ」、「だから今日は家へ帰れ」と。

石山さんはハンセン病が治癒した後、結婚を機に社会に復帰し、働きながら3人の子供を育てました。

とにかく人をさげすむような行為や言葉は使ってはダメだよ。これは人間の尊厳に関わることだから。コロナだって感染症で誰もなりたくてなるものじゃないし、なったからといって悪人のように言うのは間違っている。病気のせいだから。病気は個人に責任はない。個人に責任押し付けてそういう態度をとるのは人間として許せないと僕は思う。



### 話し合ってみよう

- ◆どうしてハンセン病の患者や回復者、そのご家族は差別をされたと思いますか
- ◆自分がその立場だったらどう思いますか
- ◆これは過去の話でしょうか（新型コロナウイルス感染症によってどのような偏見・差別があったでしょうか）
- ◆私たちにできることは何でしょうか

# 「同和問題(部落差別)」

## 同和問題(部落差別)とは

同和問題(部落差別)とは、日本社会の歴史的発展の過程で形づくられた身分制度や歴史的、社会的に形成された人々の意識に起因する差別が、様々なかたちで現れているわが国固有の重大な人権問題です。



水平社宣言

封建時代において、「えた」「ひにん」と呼ばれていた人々は、武具、馬具や多くの生活用品に必要な皮革をつくる仕事や、役人のもとで地域の警備を行うなど、生活に欠かせない役目を担っていましたが、住む場所や仕事、結婚、交際など、生活のすべての面で厳しい制限を受け、差別されました。

大正11(1922)年3月3日京都の岡崎公会堂で「全国水平社」創立大会が開催され綱領と決議及び「水平社宣言」を探査し当事者運動が起こりました。

国は地方公共団体と共に、昭和44(1969)年から33年間、特別措置法に基づき、地域改善対策を行ってきました。その結果、同和地区的劣悪な環境に対する物的な基盤整備は着実に成果を上げ、一般地区との格差は大きく改善されました。

しかし、インターネット上で差別を助長するような内容の書き込みがされるなど、



依然として部落差別が存在していることから、差別の解消に向けた国等の取組を定めた「部落差別の解消の推進に関する法律」が平成28(2016)年12月に公布・施行されました。

東京都で暮らしている上川多実さん。

被差別部落出身の両親のもとに生まれ、結婚差別が原因で音信不通になった叔母がいるなど、身近に差別の問題を感じながら育ちました。

実際の生活の中で同和問題(部落差別)と向き合うことを意識し、暮らしの中で感じる差別の問題について発信しています。

しかし、無理解・無関心による否定的な反応も少なくありません。

SNSとかにちょっと部落差別のことを書いたりとかするが「なんなの、あの子」「全然意味わかんないのに ああいうのSNSとかに書かれたらコメントしづらいし、書かないのでほしいよね」と陰で言っていたとか「なんでそんなのわざわざ言ってくるの?」みたいな反応はまあまあ多い。



それでもより多くの人に同和問題(部落差別)について考えてもらいたいと、上川さんは講演やワークショップなどで発信する活動を行っています。

私が感じてきたつらさって、まわりが部落差別のことをちゃんと知らないことによるつらさだと感じているので、つらい思いをすればするほどもっと知ってもらわなきゃ、やっぱりちゃんと知ってもらわなきゃ、という気持ちが逆に強くなっていく。

### 話し合ってみよう

- ◆同和問題(部落差別)について知っていましたか
- ◆被差別部落出身者はなぜ差別をされてきたと思いますか
- ◆どうして上川さんは「知ってもらいたい」と思うのでしょうか
- ◆私たちにできることは何でしょうか

# 「アイヌの人々の人権」

## アイヌとは



強制移住させられた樺太アイヌの人たち 提供/北海道大学附属図書館

北海道を中心とした地域に古くから住んでいるアイヌの人々は、固有の言語であるアイヌ語を持ち、イオマンテ（動物神の靈送り）の儀式など、独自の文化を築き上げていました。

しかし、次第に独自の生活様式や文化は侵害されるようになり、特に強制移住させられた明治以降は狩猟を禁止され、土地を奪われ、教育の場などでアイヌ語の使用が禁じられ、日本語を使うことを強制されるなどの同化政策が進められました。アイヌの人々は生活の基盤や独自の文化を失い、いわれのない差別の中で貧困にあえいきました。

日本の先住民族であるアイヌの人々が誇りをもって生活することができ、またその誇りが尊重される社会を実現するために、これまで様々な法律が施行されています。

平成19（2007）年「先住民族の権利に関する国際連合宣言」採択

平成20（2008）年「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」国会採択

令和元（2019）年「アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための

施策の推進に関する法律」施行

令和2（2020）年には、アイヌの歴史や文化を学び伝える「民族共生象徴空間 ウポボイ」が北海道白老町に誕生しました。「人々が互いに尊重し共生する社会のシンボルとして、また、アイヌの世界観、自然観等を学ぶことができるよう、必要な機能を備えた空間です。



民族共生象徴空間 ウポボイ

YouTubeでアイヌ語やアイヌ文化について発信している関根摩耶さんは、自身もアイヌの血を引いています。

アイヌだからってアイヌ語が話せるとか、アイヌの文化を知ってる、アイヌの料理も作れて、アイヌの着物も作れてとか、そういう人なんて全然いなくて。自分たちで意識して勉強しないと伝承していくのが難しいというのが現状です。

関根さんは大学でアイヌ語やアイヌ文化について学ぶ研究会に所属しています。

アイヌとして生まれてアイヌの価値観を知れたからこそ勉強を楽しいと思えるようになった。勉強するということは「相手のことを知る」こと。相手が、たとえ家族



工芸品を作る貝澤雪子さん(祖母)

でも兄弟でも恋人でも、自分と違う人だということを理解して、理解しようと頑張って近づいていく。近づこうとするというのは私の中ですごく大切なと思っていて。

それを教えてくれたのもアイヌだった、すごくアイヌに生まれてラッキーだなと思っている。

### 話し合ってみよう

- ◆アイヌの方々について知っていましたか
- ◆アイヌの人々はどんな偏見や差別を受けたと思いますか
- ◆どうして関根さんはアイヌ文化を「伝えたい」と思うのでしょうか
- ◆私たちにできることは何でしょうか

## 関根摩耶さん

大学生 YouTubeでアイヌ語やアイヌ文化を発信

## 紙資料用データ

このDVDには、通常の映像データとは別に、プリントアウトして活用できる紙資料用データ(PDF)も含まれています。視聴後、こちらの資料をご活用ください。

- 手引書
- 関連資料

## DVDから紙資料用データをパソコンに保存する方法

① DVDをパソコンに入れる



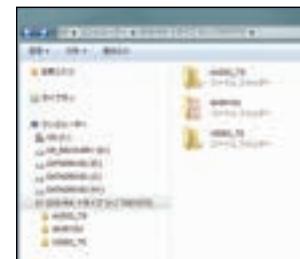
②「コンピューター」を開く



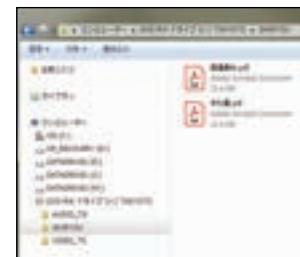
③「TOKYOTO」にカーソルを合わせ、右クリックし、メニューから「開く」を選択する



④「SHIRYOU」を開く



⑤必要なファイルを選択し、パソコンに保存する



PDFファイルをご覧になるには、ご使用のパソコンに閲覧ソフトウェアのAdobe Acrobat Readerがインストールされている必要があります。Adobe社のサイトから無償でダウンロードできます。

## 関連情報

### 【東京都ホームページ】

- 人権啓発冊子

※人権課題ごとの解説が掲載されています。

<https://www.soumu.metro.tokyo.lg.jp/10jinken/hokanko/index.html>



### 【法務省ホームページ】

- 啓発冊子

※人権課題ごとの解説が掲載されています。

<https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken25.html>



- 人権教育・啓発白書

※各府省庁が取り組んだ人権教育・啓発の施策を取りまとめた報告書です。

[https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken04\\_00173.html](https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken04_00173.html)



## 人権ビデオライブラリー

これらの施設では、様々な人権課題を取り上げた視聴覚教材がそろっていますので、研修等を企画する際にご活用ください。

- 東京都教職員研修センター（人権教育資料センター）

〒113-0033 東京都文京区本郷1-3-3

TEL : 03-5802-0306

<https://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.lg.jp/08ojt/jinken/index.html>



- 東京都人権プラザ（図書資料室）

〒105-0014 東京都港区芝2-5-6 芝256スクエアビル2階

TEL : 03-6722-0123

<https://www.tokyo-hrp.jp/library/index.html>



- 人権ライブラリー（公益財団法人人権教育啓発推進センター・併設）

〒105-0012 東京都港区芝大門2-10-12 KDX芝大門ビル4F

TEL : 03-5777-1919

<https://www.jinken-library.jp/>

